J613-M6933-02 Rev.N 050916

最初にお読みください

CentreCOM® *9812T/9816GB* リリースノート

この度は、CentreCOM 9812T/9816GB をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。このリリースノートは、取扱説明書（J613-M6933-00 Rev.A）とコマンドリファレンス（J613-M6933-01 Rev.G）の補足や、ご使用の前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1　ソフトウェアバージョン　2.6.2 plj13（2.6.2-j13）

2　本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン **2.6.2 plj08** から **2.6.2 plj13** へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

2.1 DESTINATION=ROUTER のログ出力先定義において、SET LOG OUTPUT コマンドでパスワードをいったん変更した後、再度元のパスワードに戻すと、ログが出力されなくなることがありましたが、これを修正しました。

2.2 メモリートリガーが正しく動作しませんでしたが、これを修正しました。

2.3 意図しないリブート（クラッシュ）の発生直後に再起動トリガーが正しく動作しませんでしたが、これを修正しました。

2.4 NTP による時刻取得ができなくなることがありましたが、これを修正しました。

2.5 NTP 使用時、Stratum フィールドの値が 0（unspecified）以外の NTP パケットを破棄していましたが、これを修正しました。

2.6 本製品に Telnet ログインしているとき、Telnet クライアント側で「Ctrl」+「D」を入力するたびにメモリーが消費されていましたが、これを修正しました。

2.7 本製品に Telnet ログインしているとき、セキュリティータイマーによってパスワードの再入力を要求された場合に、パスワードを入力せずに Telnet セッションを切断するとメモリーが消費されていましたが、これを修正しました。

2.8 タグ VLAN 構成において、本来タグ付きであるべきパケットがタグなしで送信されることがありましたが、これを修正しました。

2.9 スパニングツリープロトコル（802.1D）において、タイマーのデフォルト値を変更して使用した場合、まれにリブートすることがありましたが、これを修正しました。

2.10 RESET IP COUNTER=ALL を実行しても、SNMP とマルチキャストのカウンターがクリアされませんでしたが、これを修正しました。

2.11 Record Route オプションの length フィールドに 0 がセットされている IP パケットを受信したときにリブートすることがありましたが、これを修正しました。

2.12 PURGE IP コマンドを実行しても、DISABLE IP ICMPREPLY コマンドの設定が消去されませんでしたが、これを修正しました。

2.13 SHOW IP ROUTE コマンドにおいて、インターフェース（VLAN）の VLAN ID が 4 桁の場合にリンクダウンを示す「#」が表示されませんでしたが、これを修正しました。

2.14 RIP と VRRP、または、OSPF と VRRP を併用している場合、RIP または OSPF インターフェースのリンクアップ・ダウン時に L3 テーブルが正しく更新されない場合がありましたが、これを修正しました。

2.15 OSPF において、Delayed ACK を正しく返さないことがありましたが、これを修正しました。

2.16 本製品と相手機器双方の Neighbour キャッシュが空の状態で、相手機器から本製品に向けてデータ長 1453 Byte 以上の IPv6 PING を実行すると、本製品がリブートすることがありましたが、これを修正しました。

2.17 ENABLE/DISABLE IP IGMP ALLGROUP=ALL を実行するとリブートすることがありましたが、これを修正しました。

2.18 ファイアウォール有効時、ICMP Redirect を引き起こす IP パケット（同一サブネット上の別のルーターに転送しなくてはならないパケット）を転送せずに破棄していたため、ICMP Redirect メッセージを受け入れない設定の IP ホスト（Windows XP サービスパック 2 の動作している PC など）で通信ができなくなることがありましたが、これを修正しました。

2.19 VRRP が無効状態のときに VRRP インターフェースがリンクアップすると、その後 VRRP を有効化しても該当インターフェースでは VRRP が動作しませんでしたが、これを修正しました。

3 本バージョンでの制限事項

ソフトウェアバージョン **2.6.2 plj13** には、以下の制限事項があります。

3.1 コンパクトフラッシュ

参照「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「記憶装置とファイルシステム」

SHOW CFLASH コマンドでコンパクトフラッシュカードのシリアル番号を表示すると、表示されたシリアル番号の前に不要なスペースが入ります。シリアル番号は正しく表示されていますのでスペースは無視してください。

3.2 NVS 上のシステムファイル保護機能

参照 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「記憶装置とファイルシステム」

CLEAR NVS TOTALLY コマンド実行後など、prefer.ins がフラッシュメモリー上にだけ存在する状態でシステムを再起動すると、ファームウェア構成情報が読み込まれず、EPROM からシステムが起動します。CLEAR NVS TOTALLY コマンド実行後は、SET INSTALL コマンドでリリースファイル（とパッチファイル）を指定しなおしてください。

3.3 SHOW USER コマンド

参照 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「ユーザー認証データベース」

Telnet ログイン時に RESET ASYN=0 を実行すると、シリアルコンソールからのログインセッションが強制終了されますが、SHOW USER コマンドの「Active (logged in) Users」欄には「Asyn 0」からログインしたユーザーが残ったままになります。

3.4 SHOW USER RSO コマンド

参照 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「セキュリティー」

SHOW USER RSO コマンドの「Failed logins」欄と「Last failed login」欄に値が表示されないことがあります。

3.5 ログ

参照 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「ログ」

- ○ SET LOG OUTPUT コマンドで PERMANENT ログの設定を変更すると、既存のログが削除されます。
- ○ ADD LOG RECEIVE コマンドの設定がシステムを再起動するまでは有効になりません。ADD LOG RECEIVE コマンド入力後は、設定を保存し、システムを再起動してください。
- ○ ログメッセージフィルターの設定（ADD LOG OUTPUT コマンド）において、MODULE パラメーターに SWITCH を指定しても（MODULE=SWITCH)、スイッチングモジュールのログが出力されません。これを回避するには、スイッチングモジュールの ID である 87 を指定してください（MODULE=87)。
- ○ DESTINATION=NVS のログ出力先定義に対し、SET LOG OUTPUT コマンドで MESSAGES パラメーター（保存件数）を変更すると、すでに NVS 上に保存されていたメッセージがすべて消去されます。

3.6 トリガー

参照 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「トリガー」

CREATE TRIGGER コマンドの REPEAT パラメーターに回数（count)、NO、ONCE のいずれかを指定した後、設定をファイルに保存すると、設定ファイル上の REPEAT パラメーターの値が入力時とは異なる場合があります。このようなときは、EDIT コマンドで設定ファイルを開

き、REPEAT パラメーターの指定を修正してください。また、設定ファイルを PC などで作成し、本製品にダウンロードする方法もあります。

3.7 SNMP

参照 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「SNMP」

○ ブロードキャスト受信時に、VLAN インターフェースの ifInDiscards (MIB-II) がカウントされます。

○ dot1dStpRootPort, dot1dStpPort, dot1dTpFdbPort, dot1dTpPortのポート番号が正しく表示されません。

○ イーサネット MIB の dot3StatsExcessiveCollisionFrames、dot3StatsFrameTooLongs が正しくカウントアップされません。

○ ポート 13 ～ 16 の範囲内でトランクグループを構成した場合、トランクグループ内で最も番号の小さいポートのリンクアップトラップが送信されません。

○ dot3StatsCarrierSenseErrors の値が取得できません。

○ topologyChange トラップと newRoot トラップが送信されません。

○ プライベート MIB の instRelMajor、instRelMinor、instRelInterim の値を取得できません。

3.8 SET TTY コマンドの PAGE パラメーター

参照 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「ターミナルサービス」

SET TTY コマンドの PAGE パラメーターに OFF を指定した場合、この設定変更を CREATE CONFIG コマンドでファイルに正しく保存できません。

3.9 SET TELNET コマンド

参照 「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「ターミナルサービス」

SET TELNET コマンドをパラメーターなしで実行すると（単に「SET TELNET」と入力すると）、SHOW TELNET コマンドと同じ動作になります。

3.10 SHOW SWITCH COUNTER コマンド

参照 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」

RIP が有効化されているインターフェースがリンクダウンしていると、SHOW SWITCH COUNTER コマンドの Transmit/Discards がカウントアップされます。

3.11 RESET SWITCH PORT コマンド

参照 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「ポート」

RESET SWITCH PORT コマンドは、AT-G8SX、AT-G8LX、AT-G8T、AT-G9ZX の GBIC ポートに対しては使用できませんが、現状これらのポートに対しても本コマンドがエラーにならずに受け付けられます。

3.12 ポートミラーリング

参照 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「ポート」

ソースポートの所属 VLAN から送信される予約 IP マルチキャストパケット（OSPF、IGMP、PIM 等）がミラーポート自身からも送信されます。

3.13 ポートセキュリティー

参照 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「ポート」

INTRUSIONACTION=TRAP に設定したとき、一度 SNMP トラップを送信すると、その後不正パケットを受信してもトラップを送信しなくなります。

3.14 MAC アドレス VLAN

参照 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「バーチャル LAN」

MAC アドレス VLAN 使用時、「vlanPortAddRule: all ports already associated with rule」というメッセージが表示されることがありますが、ポートの割り当ては正しく行われていますので、このメッセージは無視してください。

3.15 スパニングツリープロトコル（STP）

参照 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「スパニングツリープロトコル」

○ スパニングツリープロトコル（STP）の動作モードを変更すると、STP が無効になっているポートから BPDU が 1 パケット送信されます。

○ スパニングツリープロトコル（STP）有効時に ADD VLAN PORT コマンドを実行すると、VLAN 内のすべてのポートにおいて、STP のポートステータスが初期化されます。

○ スパニングツリープロトコル（STP）有効時に Topology Change が発生すると、すべてのポートから ARP エントリーが削除されます。

3.16 クラシファイア

参照 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「クラシファイア」

IPSADDR と IPDADDR の両方を条件とするクラシファイアでは、TCPSPORT、TCPDPORT の指定が無視されます。

3.17 ポリシーベース QoS

参照「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「ポリシーベース QoS」

CREATE/SET QOS TRAFFICCLASS コマンドの MINBANDWIDTH、MAXBANDWIDTH パラメーターに 64Kbps の倍数でない値を指定した場合、内部的な設定値は 64Kbps の倍数になるよう丸められますが、そのことを示すメッセージが表示されません。また、SHOW QOS TRAFFICCLASS コマンドの「Min Bandwidth」、「Max Bandwidth」欄には、丸めた後の実際の設定値ではなく、コマンド入力時に指定した値が表示されます。

3.18 ハードウェアパケットフィルター

参照「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「ハードウェアパケットフィルター」

DPORT にポート 1 を含むハードウェアパケットフィルターを定義している場合、ARP、RIP1 など、本製品（CPU）が処理すべきブロードキャストパケットが CPU に転送されず、結果として処理されないことがあります。

注：ユニキャスト、マルチキャストパケットでは発生しません。

この現象は、次の 3 条件をすべて満たすときに発生します。

- 受信ポートと同一 VLAN 内に、リンクアップしているポートが 1 つしかない。
  （VLAN 所属ポートが 1 つだけの場合、あるいは、所属ポートが複数あってもリンクアップしているポートが 1 つだけの場合、など）
- DPORT に 1 を含むハードウェアパケットフィルターが定義されている。
  （DPORT=1、DPORT=1-3,5、DPORT=ALL のいずれも当てはまります）
- 受信したブロードキャストパケットが、2 のフィルターの DPORT を除くすべての条件にマッチする。
  （本現象は、該当するフィルターのアクションが FORWARD、DISCARD のどちらであっても発生します）

この現象を回避するには、次のいずれかの方法を使用してください。

- 該当パケットにマッチする ACTION=FORWARD,COPY のフィルターを、前記条件 3 のフィルターよりも小さなルール番号（POSITION）で作成する。このとき、DPORT=ALL を指定する。

  注：FORWARD,COPY アクションはサポート対象外のパラメーター値です。本現象を回避する以外の目的では使用しないでください。
- 受信ポートと同一 VLAN 内に、リンクアップしているポートが 2 つ以上存在するような構成をとる。
- DPORT に 1 を含むフィルターを使用しない。

3.19 IP 統計情報

参照「コマンドリファレンス」/「IP」

○ ファイアウォール有効時、SHOW IP COUNTER コマンドで表示される受信パケットカウンター（ifInPkts、ifInBcastPkts、ifInUcastPkts、ifInDiscards）に、実際の受信パケット数の 2 倍の値が表示されます。

○ ICMP アドレスマスク応答メッセージを受信しても、SHOW IP COUNTER コマンドの inAddrMaskReps カウンターがカウントされません。

3.20 ICMP メッセージ

参照「コマンドリファレンス」/「IP」

ICMP Host Unreachable メッセージの送信に時間がかかることがあります。

3.21 TRACE コマンド

参照「コマンドリファレンス」/「IP」

SET TRACE コマンドのパラメーターに有効範囲外の値を指定してもエラーにならないことがあります。

3.22 IP インターフェース

参照「コマンドリファレンス」/「IP」/「IP インターフェース」

ADD/SET IP INTERFACE コマンドで他の VLAN と重複するネットワークアドレス（IP アドレス / ネットマスク）を指定しても、エラーになりません。重複したアドレスを設定しないよう注意してください。

3.23 RIP バージョン 2

参照「コマンドリファレンス」/「IP」/「経路制御（RIP）」

RIP バージョン 2 使用時、ネットワークアドレスが同じでサブネットマスクの異なる複数の経路情報を持っている場合、優先度の最も高い（Preference 値が最も小さい）経路だけを通知します。また、これらの経路の優先度が等しい場合は、マスクが最長の経路だけを通知します。

3.24 OSPF

参照「コマンドリファレンス」/「IP」/「経路制御（OSPF）」

○ 仮想リンクが確立している状態で OSPF エリアの設定を変更すると、リブートすることがあります。仮想リンク確立後に OSPF エリアの設定を変更するときは、EDIT コマンドを用いて設定ファイルを直接編集し、再起動してください。

○ OSPF インターフェースの IP アドレスを変更すると、その後 IP アドレスを元に戻しても OSPF の隣接関係が回復しません。

3.25 BGP-4

参照「コマンドリファレンス」/「IP」/「経路制御（BGP-4)」

○ RIP 経路を BGP-4 で配布している場合、RIP 経路のメトリックが 16（無効）になっても、ただちに経路の取り消しをピアに通知しません。該当 RIP 経路がシステムの IP 経路表から削除されたときにはじめて通知します。

○ ADD BGP NETWORK コマンドまたは ADD BGP IMPORT コマンドで MED 値をセットするルートマップを指定していても、E-BGP ピアには MED 値が通知されません。

○ 特定アドレス宛ての経路として、ルートマップの設定されている経路と、Withdrawn 状態の経路の 2 つが BGP-4 の経路表に登録されている場合、同じアドレス宛ての経路情報を受信するとリブートします。

○ 包含関係にある複数の経路（たとえば、10.0.0.0/8 と 10.1.1.0/24）が存在する場合、BGP-4 によって範囲の広い経路（この例では 10.0.0.0/8）が削除されても、詳細な経路（この例では 10.1.1.0/24）が L3 テーブルに追加されません。このため、IP 経路表と L3 テーブルの間に矛盾が発生し、通信不良が発生することがあります。

○ ADD BGP PEER コマンド、SET BGP PEER コマンドの EHOPS パラメーターが機能しません。

3.26 DNS サーバーアドレスの動的取得

参照「コマンドリファレンス」/「IP」/「名前解決」

ADD IP DNS コマンドの INTERFACE パラメーターで、DNS サーバーアドレスを DHCP で動的に取得するよう設定していないにもかかわらず、DNS サーバーアドレスが動的に取得されます。

3.27 DNS キャッシュ

参照「コマンドリファレンス」/「IP」/「名前解決」

DNS キャッシュ機能のキャッシュサイズを 1 に設定した場合、最初のキャッシュエントリーがエージングも上書きもされずに残り続けます。キャッシュサイズを 1 に設定しないでください。

3.28 ARP

参照「コマンドリファレンス」/「IP」/「ARP」

○ マルチホーミングしたIPインターフェース上にスタティックARPエントリーを登録する場合、存在しない論理インターフェースを ADD IP ARP コマンドの INTERFACE パラメーターに指定するとリブートします。存在しないインターフェースを指定しないようご注意ください。

○ Gratuitous ARP パケットの受信時、受信インターフェースと異なるネットワークの IP アドレスであっても、そのアドレスを ARP キャッシュに登録します。

3.29 UDP ブロードキャストヘルパー

参照「コマンドリファレンス」/「IP」/「UDP ブロードキャストヘルパー」

UDP ブロードキャストパケットの転送先は 32 個まで設定可能ですが、コマンドを入力した後、設定を保存して再起動するまでは、28 個目までしか機能しません。また、設定保存後に再起動しても 31 個目までしか機能しません。

3.30 IPv6 の PING

参照「コマンドリファレンス」/「IPv6」

○ PING コマンドで IPv6 のグローバルアドレスを指定し、なおかつ、送出インターフェース名を指定すると、リブートすることがあります。グローバルアドレス指定時は、送出インターフェースを指定しないでください。

○ IPv6 over IPv4 トンネルインターフェース使用時、PING コマンドで IPv6 アドレスを指定すると、始点アドレスにループバックアドレス（::1）やトンネルインターフェースのリンクローカルアドレスがセットされることがあります。

3.31 SET IPV6 PREFIX コマンド

参照「コマンドリファレンス」/「IPv6」/「近隣探索」

SET IPV6 PREFIX コマンドの設定をした場合、コマンド入力直後は正しく機能しますが、設定保存後に再起動すると正しく機能しなくなります。

3.32 Neighbour キャッシュ

参照「コマンドリファレンス」/「IPv6」/「近隣探索」

○ Neighbour をスタティック登録していても、他のポートから NA パケットを受信すると Neighbour キャッシュのポート番号が書き換えられます。

○ RESET IPV6 NDCACHE コマンドを実行すると、スタティック登録した Neighbour キャッシュエントリーも削除されます。

○ Neighbour キャッシュが空のとき、リンクローカルアドレス宛てでサイズが 35000 Byte 以上の IPv6 PING パケットを受信するとリブートします。

3.33 DVMRP

参照「コマンドリファレンス」/「IP マルチキャスト」/「DVMRP」

○ SHOW DVMRP コマンドの COUNTERS オプションにおいて、Prune パケット送信数（Send Pkts）に実際の 2 倍の値が表示されます。

○ VLAN が 1 つしか存在しない状態で DVMRP を有効にすると、不正なパケットを送信することがあります。またこのとき、CPU の負荷が高くなる場合があります。VLAN が 1 つしか設定されていない状態で DVMRP を有効にしないでください。

○ いったん確立した隣接関係が解消されると、それ以降マルチキャストパケットを正しくルーティングできなくなります。

3.34 PIM

参照「コマンドリファレンス」/「IP マルチキャスト」/「PIM」

○ (PIM-DM/PIM-SM) インターフェースがダウンしたことにより IP の経路表からエントリーが削除されても、PIM の経路表からはエントリーが削除されません。

○ (PIM-DM) Assert が発生する環境において、Assert Timer 満了時にデータをフラッディングすることなく再 Assert するため、下流ルーターがマルチキャストデータを受信できなくなることがあります。このようなときは、SET PIM コマンドの PRUNEHOLDTIME パラメーターを 180 秒未満に設定してください(デフォルトは 210 秒)。

○ (PIM-DM) Prune Limit Timer 満了後にマルチキャストデータを受信しても、Prune メッセージを送出しないことがあります。この場合、1 分後に Prune メッセージが送出されるまで、マルチキャストデータのフラッディングが続きます。

○ (PIM-SM) PIM-SM とスタティック IGMP の併用時、スタティック IGMP グループエントリーからポートメンバーを削除した後にマルチキャストパケットを受信すると、(S,G) Join メッセージを送信しなかったり、不正な定期 Join メッセージを送信することがあります。これを回避するには、スタティック IGMP グループエントリーからポートメンバーを削除した後、設定を保存して再起動してください。

○ (PIM-SM) DR でないインターフェースで IGMP Report を受信しても PIM Join メッセージを送信します。

3.35 IGMP

参照「コマンドリファレンス」/「IP マルチキャスト」/「IGMP」

○ Non-Querier のときでも、Leave メッセージを受信すると Refresh タイマーを更新します。

○ IGMP、IGMP Snooping の badQuery、badRouterMsg カウンターがカウントされないことがあります。

○ Last Member Query Interval タイマーの起動中に Leave メッセージを受信すると、同タイマーが更新されます。

○ Last Member Query Interval タイマーの起動中に Report メッセージを受信しても、同タイマーが更新されず、Group-specific Membership Query を再送信してしまいます。

○ あるポートに対して、ユニキャスト IP アドレスとマルチキャスト MAC アドレス「03-xx-xx-xx-xx-xx」を関連付けるスタティック ARP エントリーを登録した場合、該当 IP アドレス宛てのパケットが他のポートにもフラッディングされます。

3.36 IPX

参照「コマンドリファレンス」/「IPX」

IPX インターフェースの構成ポートがすべてリンクダウンしても、SHOW IPX CIRCUIT コマンドの表示項目 Link State に反映されません（表示上は「up」のまま）。このようなときは、いったんケーブルを抜き差しすると正しく表示されるようになります。

3.37 ファイアウォール

参照「コマンドリファレンス」/「ファイアウォール」

○ PUBLIC 側で受信したパケットを破棄した場合、SHOW FIREWALL POLICY コマンドの COUNTER オプションで表示される Total Packets Received カウンターが 2 ずつカウントされます。

○ ファイアウォールポリシーにアクセスリストを登録する場合、IP アドレスリストよりルール番号の大きい MAC アドレスリストは有効になりません。MAC アドレスリストのルール番号は IP アドレスリストのルール番号よりも小さくなるように設定してください。

○ マルチホーミングしたインターフェース上ではファイアウォール NAT が正常に動作しません。マルチホーミングしたインターフェース上ではファイアウォール NAT を使用しないでください。

○ FTP サーバーの制御用コネクションポートが 21 以外のとき、FTP データの通信に対して NAT が機能しません。

○ ファイアウォールを無効にしても、SHOW FIREWALL POLICY COUNTER コマンドで表示される「Number of active session」の値がクリアされません。これは表示だけの問題であり、動作には影響ありません。

○ 不正なチェックサムや ACK 番号を持つ TCP セグメントに対しても ACK を返します。

3.38 DHCP サーバー

参照「コマンドリファレンス」/「DHCP サーバー」

DHCP サーバー機能の使用中に本製品のソフトウェアをバージョンアップすると、バージョンアップ前に IP アドレス等を割り当てたクライアントからのリース延長要求に正しく応答できない場合があります。ただし、運用上は特に問題ありません。

4　取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

付属の「取扱説明書」、および「CentreCOM 9800 シリーズ コマンドリファレンス 2.6」（Rev.G）の補足事項です。

4.1　HTTP サーバー（サポート対象外）

参照「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「システム」

本製品はデフォルトで HTTP サーバー（サポート対象外）が有効になっているため、IP 有効時はTCPポート80番がオープンしています。セキュリティーを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。

4.2　ポートのリンクアップ時のログ表示

参照「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「ログ」

スイッチポートの速度が変わったときに、SHOW LOG コマンドで表示されるログに、下記のようなメッセージが記録される場合がありますが、動作に問題はありませんので、このメッセージは無視してください。

Parameter EGRESSLIMIT, value has been rounded to XXXX

4.3　ログ

参照「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「ログ」

DESTINATION=ROUTER のログ出力先定義を使用するときは、ログの送信側と受信側で同一ファームウェア（ファイル名とバージョンが同じもの）を使用してください。それ以外の構成はサポート対象外とさせていただきますのでご注意ください。

4.4　SNMP

参照「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「SNMP」

ホストリソース MIB の hrStorageUsed と SHOW BUFFER コマンドの表示とでは、メモリー使用量が若干異なります。これは、SNMP Get Request への応答にもメモリーを使うためです（hrStorageUsed の値は、このときの消費量を差し引いた値になります）。

4.5　NTP

参照「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「NTP」

Windows XP標準のNTPクライアントからNTP要求を受信しても応答しないことがあります。これは Windows XP の仕様によるものです。

4.6　イングレスフィルタリング

本製品はイングレスフィルタリングをサポートしていないため、受信パケットの VLAN ID が受信ポートの所属 VLAN と一致しない場合でも、パケットは破棄されません。

4.7 STP ドメインの設定

参照 「コマンドリファレンス」/「スイッチング」/「スパニングツリープロトコル」

VLAN を「default」以外の STP ドメインに所属させる場合、VLAN にポートを割り当ててから、ADD STP VLAN コマンドを実行してください。ポート割り当て前に ADD STP VLAN コマンドを実行すると、不正な設定がエラーにならないことがあります。

また、VLAN 内に、複数 VLAN に所属するポートが 1 つでも含まれている場合、その VLAN を default 以外の STP ドメインに参加させることはできません。そうした VLAN では、default STP を使ってください（VLAN はデフォルトで default STP 所属となります）。

4.8 IP 統計情報

参照 「コマンドリファレンス」/「IP」

本製品では、IP チェックサムエラーのパケットを受信しても、SHOW IP COUNTER コマンドの inHdrErrors カウンターがカウントされません。

4.9 スタティックルートの設定

参照 「コマンドリファレンス」/「IP」/「経路制御」

ADD IP ROUTE コマンドでスタティックルートを設定する場合、NEXTHOP パラメーターで指定するネクストホップルーターの IP アドレスは、INTERFACE パラメーターで指定する IP（VLAN）インターフェースと同じサブネットにある必要があります。異なるサブネットに属する IP アドレスを指定した場合は、エラーによりコマンドは実行されません。

4.10 BGP-4

参照 「コマンドリファレンス」/「IP」/「経路制御（BGP-4)」

ADD/SET BGP PEER コマンドの MAXPREFIX に OFF 以外の値を指定し、なおかつ、MAXPREFIXACTION パラメーターに TERMINATE を指定している場合、該当ピアからの受信プレフィックス数が MAXPREFIX を超過すると BGP セッションを切断しますが、その後ただちにセッションを再確立しようとするため、TCP SYN パケットを繰り返し送出することがあります。

4.11 PIM

参照 「コマンドリファレンス」/「IP マルチキャスト」/「PIM」

○ 本製品の ASIC は、OIF から受信したマルチキャストパケットを CPU に転送しないため、OIF からマルチキャストパケットを受信したときでも Assert メッセージは送出されません。このため、隣接ルーターが存在する OIF に対しては、マルチキャストパケットを受信したか否かにかかわらず、Assert メッセージを送出します。

○ 本製品は Prune 状態でなくても Graft メッセージを送出することがあります。ただし、余分な Graft メッセージを出すだけで、運用上の問題はありません。

4.12 コンパクトフラッシュカードの取り付けかた

参照「コマンドリファレンス」/「運用・管理」/「記憶装置とファイルシステム」

本製品には、オプション（別売）で、コンパクトフラッシュカード（以下、CF カードと省略します）「AT-CF128A-001」が用意されています。外部記録メディアとして、ファームウェアや設定ファイルの保存が可能です。

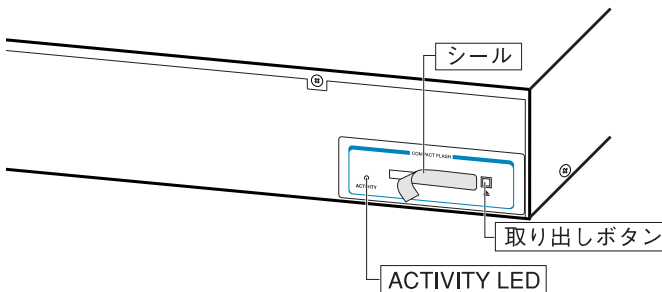
弊社販売品以外の CF カードでは動作保証をいたしませんのでご注意ください。

CF カードのデータは他の CF カードリーダーでも操作が可能なため、取り扱いには充分ご注意ください。

本製品は FAT16 フォーマットの CF カードに対応しています。FAT32 や NTFS フォーマットの CF カードは、コンピューターで FAT（FAT16）にフォーマットしてからご使用ください。

本製品に CF カードを取り付ける手順は以下にしたがってください。

CF カードはホットスワップ対応のため、取り付け / 取りはずしの際に、本製品の電源を切る必要はありません。

1. ご購入時には、CF カードスロットをシーリングしてあります。CF カードを使用する際にはシールをはがしてください。

2. CF カードをスロットにしっかりと奥まで差し込みます（CF カードが挿入されると、取り出しボタンが飛び出ます）。

CF カード使用時の ACTIVITY LED の表示は以下のようになります。

色	状態	表示内容
緑	点滅	CF カード挿入時に一回点滅します。
	点灯	CF カードにアクセスしているときに点灯します。

CF カード挿入時、カードが正しく認識されると、以下のようなメッセージが表示されます。

```
Info (1106268) :  Compact flash card initialisation successful.
```

CF カードが正しく認識されなかった場合、以下のようなエラーメッセージが表示されます。

```
Error (3106300) :  Compact flash card initialisation unsuccessful.
```

さらに、SHOW CFLASH コマンドを使用して、CF カードが正しく認識されているか確認することができます。

（正しく認識されている場合）

```
・・・・・・・・・・・・・（省略）・・・・・・・・・・・・
Card Information:
              Hardware detected..............Yes
・・・・・・・・・・・・・（省略）・・・・・・・・・・・・
```

（正しく認識されていない場合）

```
・・・・・・・・・・・・・（省略）・・・・・・・・・・・・
Card Information:
              Hardware detected..............Yes (Invalid)
・・・・・・・・・・・・・（省略）・・・・・・・・・・・・
```

CF カードを取りはずす場合は、取り出しボタンを押して CF カードを引き抜きます。

CF カードへのアクセス中（ACTIVITY LED 点灯中）に、CF カードを取りはずさないでください。データが破損する恐れがあります。

CF カード上のファイル操作などについては、コマンドリファレンスをご参照ください。

5　未サポートコマンド（機能）

以下のコマンド（機能）はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

○　以下のキーワードを含む全コマンド

ENABLE の後に [?] キーを押すと表示される機能別キーワードです。

ALARM, APPletalk, CLNS, ETH, GARP, GRE, GUI, HTTP, L2TP, LDAP, LOADBalancer, LB, PIM6, PKI, PPP, RSVP, SA, SSL, STAR, SYSTEM SYSR

○　以下のコマンド（パラメーター）

COPY
DUMP
START PKT
STOP PKT
SET PKT
SET SYSTEM TEMPTHRESHOLD
TRACE [ADDRONLY]
PING [APPLEADDRESS] [SAPPLEADDRESS] [OSIADDRESS] [SOSIADDRESS]
PURGE PING TOTALLY
SET PING [APPLEADDRESS] [SAPPLEADDRESS] [OSIADDRESS] [SOSIADDRESS]

SHOW SWITCH SOCK
SHOW SWITCH TABLE
SET SWITCH SOCK
SET SWITCH PORT [JUMBO] [MIRROR={BOTH¦TX}] [SPEED={10MHAUTO¦10MFAUTO¦100MHAUTO¦100MFAUTO¦1000MHAUTO¦1000MFAUTO¦1000MHALF}]
SET SWITCH FLOW
ENABLE/DISABLE SWITCH BIST
ENABLE/DISABLE SWITCH HEALTH
SET SWITCH BLADE
RESET SWITCH BLADE
SHOW SWITCH HOTSWAP

CREATE/SET LOG OUTPUT [MAXQUEUESEVERITY] [QUEUEONLY]

ADD/DELETE/SET/SHOW IP FILTER=0..299
ADD/SET/SHOW/ENABLE/DISABLE IP EGP
ADD/SET/SHOW IP SA
SET IP INTERFACE [VJC] [FILTER] [POLICYFILTER] [PRIORITYFILTER]
SHOW IP CACHE
SHOW IP POOL
SHOW IP ROUTE TEMPLATE
SHOW IP ROUTE [CACHE]
SHOW IP ROUTE MULTICAST
SHOW IP FLOW

ENABLE/DISABLE IP FOFILTER
ENABLE/DISABLE IP MULTICASTSWITCHING
ENABLE/DISABLE IP SRCROUTE

CREATE QOS TRAFFICCLASS [PRIORITY]
CREATE QOS FLOWGROUP [PRIORITY]
CREATE QOS TRAFFICCLASS [STATUS]
SET QOS PRIORITYQUEUEING
SET QOS VLANQUEUEMAP
SET QOS TRAFFICCLASS [STATUS]

ADD/SET/DELETE DVMRP DLC
ADD/SET/DELETE DVMRP INTERFACE [DLC]

ADD/SET IPV6 FILTER [PRIORITY]
ADD/SET IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]
ENABLE/DISABLE IPV6 FLOW

ADD/DELETE/SET PIM INTERFACE [SRCAPABLE]
SHOW PIM [STATEREFRESH]

CREATE FIREWALL POLICY DYNAMIC
ADD/DELETE FIREWALL POLICY DYNAMIC
ADD/DELETE FIREWALL POLICY PROXY
ADD/DELETE FIREWALL POLICY SPAMSOURCES
ADD/DELETE FIREWALL POLICY HTTPFILTER
SET FIREWALL POLICY SMTPDOMAIN
SET FIREWALL POLICY ATTACK
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY SMTPRELAY
ENABLE/DISABLE FIREWALL POLICY HTTPCOOKIES

CREATE ENCO KEY TYPE={DES¦3DES2KEY¦3DESINNER¦GENERAL} [MODULE] [{RANDOM¦VALUE}] [FORMAT={HEX¦NIQ}]
ENABLE/DISABLE ENCO COMPSTATISTICS
SET ENCO MODULE
SET ENCO SW
SHOW ENCO CHANNEL
SHOW ENCO COUNTER={DES¦HMAC¦JOBPROCCESSING¦PRED¦STAC¦USER¦UTIL}

SET BOOTP MAXHOPS
ENABLE/DISABLE DHCP [BOOTP]

ADD/DELETE/SHOW IPX EXCLUSION
ADD/DELETE/SHOW IPX INCLUSION
SHOW IPX CACHE
SHOW IPX CALLLOG

6　コマンドリファレンスについて

最新のコマンドリファレンス「CentreCOM 9800 シリーズ コマンドリファレンス 2.6 (J613-M6933-01 Rev.G)」は弊社 Web サイトに掲載されています。
本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web サイトで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「J613-M6933-01 Rev.G」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

http://www.allied-telesis.co.jp/